

# 自家発1,041名、可搬形596名が専技合格

## 平成24年度 専門技術者講習・試験

内発協ではこのほど、11月30日に開催された自家用発電設備審査委員会の審査結果に基づき、平成24年度実施の専門技術者講習・試験の合格者を決定した。

合格者の内訳は、自家用発電設備専門技術者（以下、自家発専門技術者）が1,041名、可搬形発電設備専門技術者（以下、可搬形専門技術者）が596名、合計1,637名となった。

合格者数を昨年度実績と比較すると、自家発専門技術者は約1割増加したものの、可搬形専門技術者は昨年度に引き続き減少し、全体としては昨年度（1,666名）を若干下回る数であった。

### 会場別の内訳

会場別の合格者について、自家発専門技術者では東京が全体の約4割を占め圧倒的に多く、次いで大阪、福岡、名古屋の順で、この傾向は例年と同じであった。

一方、可搬形専門技術者も東京が3割を占め最も多く、次いで大阪、福岡、名古屋の順で、この傾向も例年と同じであった。

### 業種別の内訳

業種別の内訳について、自家発専門技術者では「電気工事業」又は「保守・修理業」に従事する者が全体の約6割を占め圧倒的に多く、次に「製造業」へと続く傾向は例年どおりであった。

一方、可搬形専門技術者も「土木工事業」に従事

する者が圧倒的に多く半数を超え、次に「賃貸（リース・レンタル）業」、「建築設備工事業」と続く傾向は例年どおりであった。

### 年齢別の内訳

年齢別内訳として、自家発専門技術者では30代が圧倒的に多く約4割を占め、次いで40代、20代、50代以上の順であった。例年と比較し、50代以上に比べて20代が多い傾向であった。この傾向から、自家発専門技術者でも世代交代が多くなったことが推測される。

一方、可搬形専門技術者は30代が最も多く約4割を占め、40代、50代以上、20代と続く傾向は例年どおりであった。

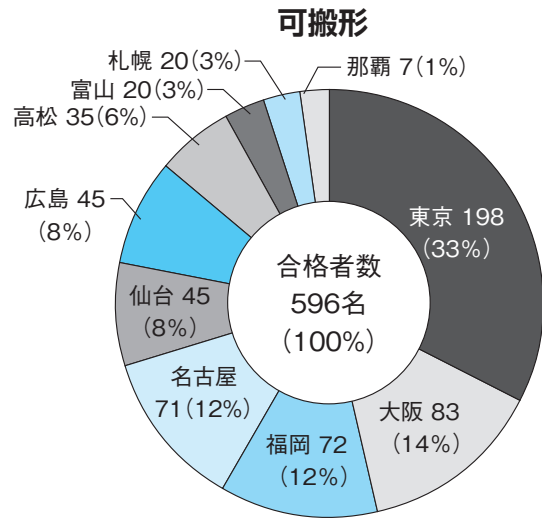
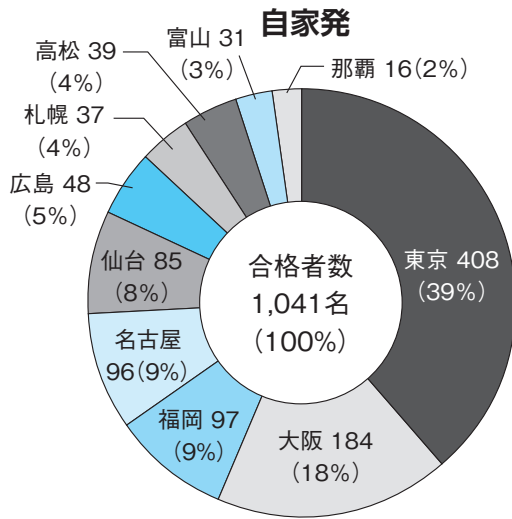
### 業務区分追加26名、 科目別29名が合格

新規受験者の講習・試験と併せて実施された「科目別受験」では29名、「業務区分追加受験」では26名がそれぞれ合格した。

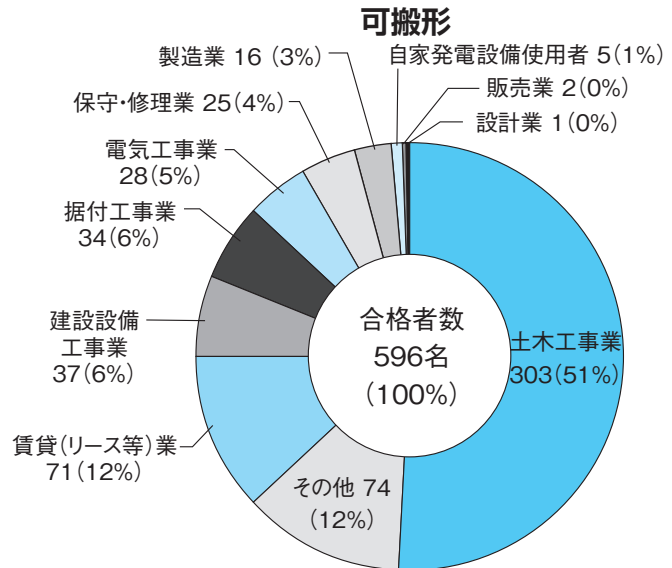
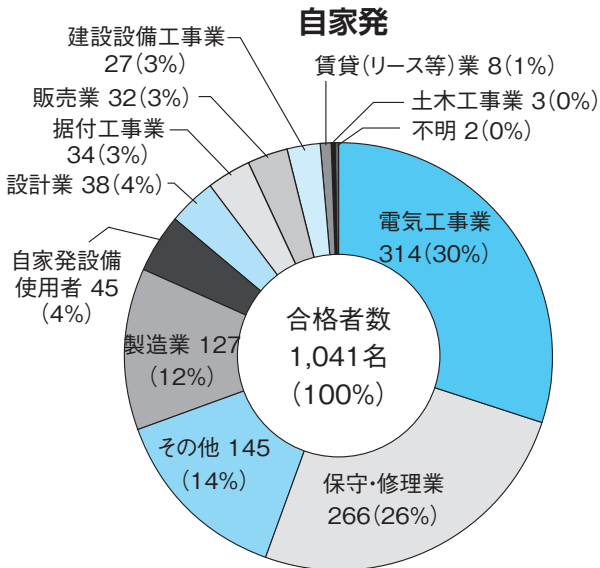
科目別受験とは、受験科目の一部が合格点に達しなかったために、前年度に合格できなかった者が、次年度に合格点に達しなかった科目を再度受験する方式である。

業務区分追加受験とは、既に専門技術者の資格を有している者が、業務区分に新たな区分を追加する目的で受験する方式である。

## 1. 会場別の合格者数



## 2. 業種別の合格者数



## 3. 年齢別の合格者数

